

令和3年度 特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（58） 学校名

豊田市立本城小学校

1 テーマ

自分や仲間やふるさとに愛着をもち、地域を拓く子どもの育成

～城山学習・ふるさと学習を通して、子どもの社会力を育てる～

2 ねらい

- 本校が立地する本城地区には「小原和紙」「打ちはやし」「四季桜」「小原歌舞伎」など、数々の伝統文化・伝統的なものがある。それを学び継承すること（ふるさと学習）や地域の「ひと・もの・こと」を生かした学習（城山学習）を通して、子どもたちが、地域への理解を深め、誇りや愛着をもち、地域（小原）の将来を考えていく。
- 学習したことを地域（小原地区をはじめ市内・市外等）に発信したり、地域の役に立つ活動をしたりすることで、子どもたちの「郷土をよりよい地域へと発展させようとする意欲（郷土愛）」や「社会力」を育てていく。

3 活動内容

（1）小原和紙の作品づくり

- 全学年の子どもたちが「小原和紙」の作品づくりに取り組み、一人1作品を制作した。
- 数年前から子どもの発達段階を考慮して、作品の様式は、1・2年生が「立体作品」、3～6年生が「絵画作品」とした。

（2）本城打ちはやし

- 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、各学年や合同練習は、感染症予防対策を講じた形での練習を少しずつ行った。
- 3年生～6年生は、各家庭で模範演奏の動画を見て、篠笛の個人練習をした。
- 12月の持久走大会の日に「打ちはやし発表」を運動場で行い、保護者の方々に披露した。（四季桜まつりでの発表の場がなくなったため）

（3）米づくり・四季桜の挿し木活動

- 地域講師から「米づくり」（5年生）「四季桜の挿し木」（3・4年生）について指導を受け、活動をした。

（4）小原地区「まちづくりリーダーサミット」への参加

- 11月、6年生は「まちづくりリーダーサミット」に参加し、自分たちが考える「小原の未来」について発表し、地域の方々と意見交流をした。

（5）小原歌舞伎「隈取体験」

- 3・4年生は、小原歌舞伎保存会の方々から歌舞伎の「隈取」について学ぶとともに、実際に「隈取」の化粧を体験した。

4 成果と課題

（1）成果

①和紙作品制作（全学年）

- 5年前から現在の地域講師（和紙作家Fさん）から指導を受けながら、6月から12月にかけて、全学年児童が和紙作品の制作に取り組んだ。
- 秋には6年生が中心となり、全学年共同で「軽トラあんどん」の作品を制作した。そ

して、10月の「軽トラあんどんパレード」に出品し、小原地区の方々に観賞していただきたい。

- 今年度も、地域講師や担任の指導を受けながら和紙作品を制作する活動を通して、1・2年では「小原和紙制作の楽しさ」を、3~6年では「小原和紙のすばらしさ」を実感し、郷土への誇りと愛着を深めることができた。
- 各学年の発達段階に合った様式・題材であることもあり、子どもたちはとても意欲的に制作し、達成感・成就感を味わうことができた。
- 地域講師Fさんは、一人一人の児童の思いや考えを大切にしながら、具体的に指導・支援をしてくださった。そのおかげで、今年度も、子どもたちは和紙制作の技法を学び、技量の向上を図りながら、自分の思いを生かした作品を仕上げることができた。
- 全学年の作品は「小原和紙子ども作品展」の会場（小原和紙美術館・小原交流館）や地域の施設で展示し、地域の人々にも観賞していただきたい。このように、子どもたちの作品を地域で展示することは、子どもたちが伝統文化の一つである「和紙」を確実に受け継いでいることを地域の方々に知っていただくことにもなっている。今後も地域の施設で展示し、地域の方々に本校の和紙制作の取組を紹介していきたい。

②本城打ちはやし（全学年）

- 今年度も制限が多い中ではあったが、打ちはやしの活動（校内での練習、その成果を発揮して校内での発表）を通して、子どもたちの「表現力」を高めるとともに、「郷土への誇りや愛着」を育てることができた。
- グループ練習では、上級生から下級生に教える姿や同級生同士で教え合う姿が見られ、子ども同士で「打ちはやしの伝統」を受け継ぐとともに、子どもたちの「良好な人間関係づくり」にも寄与した。
- 四季桜まつりの特設ステージでの演奏の機会がなくなり、また、運動会は秋に延期され縮小開催となり、今年度も全校発表は持久走大会の日のみとなった。12月の持久走大会の日に「打ちはやし発表」を運動場で行い、保護者の方々に披露した。子どもたちはとても意気込み、勇ましく立派に発表することができた。保護者の方々からは盛大な拍手をいただき、子どもたちは達成感を味わうことができた。

③地域講師・地域からの学び、地域等への発信（全学年）

- 和紙制作・米づくり・四季桜の挿し木などにおいて、地域講師から直接指導を受けたり、地域に出かけ地域の人から学んだりすることで、地域をよりよくしたいという願いにふれ、地域に役立つことをしようとする子どもの姿が見られた（特に上学年）。
- 今年度の6年生も「軽トラあんどん」の趣旨に共感し、9月に下級生に参加を呼びかけ、自らが中心となって全校児童あんどん作品を制作した。子どもたちの「小原への思い」を込めた和紙のあんどんは、地域の方の軽トラックの荷台に載せ、小原地区を周回し、地域の方々に観賞していただくことができた。
- 5年生は、11月、四季桜まつりの川見会場に出かけ、観光客に向けて、自分たちで糲まきから稻刈りまでして作ったお米（品種：ミネアサヒ）を配ったり、小原の良さを紹介する手作りのパンフレットを配ったりした。お米等を渡した方々の中で、実際にお米を使っておにぎりを作って試食した方（市外）から、試食の感想が書かれた手紙をいただいた。自分たちが積極的にPR活動をしたことの達成感を味わうことができた。

きた5年生は、自ら働きかけたことへ良い反応があったことを喜び、その方にお礼の手紙を書いて送った。また、12月の持久走大会の日には、保護者に向けて、小原で育てているお米（ミネアサヒ）のおいしさを紹介した。保護者からも良い反応があつたため、5年生はいっそう達成感を味わうことができた。

④小原地区「まちづくりリーダーサミット」への参加

- 6年生は、「小原の現状」を調べ「小原の未来」について考えた成果を、11月に小原交流館で開催された「まちづくりリーダーサミット」の場で地域の方々に発表した。
- 発表後には、地域の方々と意見交流をして、地域の方の思いや考えにふれることができた。この機会を通して学んだことをその後の学習に生かしていくことができた。

⑤小原歌舞伎「隈取体験」

- 初めて隈取をする子が多く、少し戸惑う様子も見られたが、自分が選んだ隈取の仕方で化粧をしていくうちに、次第に隈取への興味関心が高まった。化粧が終わり、歌舞伎の顔に変身すると、どの子もとても喜び、見得をする姿が見られた。今回の体験を通して、小原歌舞伎への関心と理解が深まった。

⑥保護者の共感的な声（保護者アンケートの結果より）

- 保護者アンケートでは、打ちはやし、和紙制作、米づくり、城山学習などの『特色ある学校づくり推進事業』に対して「大変よい」及び「よい」と回答した方は全体の約9割であった。コロナ禍で制限がある中で取り組んできた「本城小ならではの特色ある教育活動」が、子どもの姿を通して保護者の理解・共感を得ているからだと考える。
- 『特色ある学校づくり推進事業』の諸活動に子どもたちが生き生きと取り組むとともに、学校と地域が連携して「故郷に愛着と誇りをもつ指導」を永年続けてきていることの成果が、保護者や地域からの好評につながっていると考える。

（2）課題

- 年々児童数が減少してきて、「打ちはやし」において、太鼓や篠笛（獅子笛）の担当人数が減り、迫力ある演奏が難しくなってきた。とりわけ、篠笛については、演奏できるまでには相当な時間と練習が必要であるため、発達段階を踏まえて、1年生から篠笛を使って音出しなどに取り組み、演奏できる児童を増やせるように努めている。
- 上級生が下級生に教えることも積極的に行い、技能の伝承を進めている。少ない人数かつ限られた練習時間で「打ちはやしの伝承・技能向上」を図るのは難しい点が多いが、教員や子どもたちの努力によって成果を出している。
- 1・2年生の「立体作品」と3年生以上の「絵画的平面作品」の制作には技術的な差が大きいため、学年の発達段階と平面作品への移行を考慮した指導を心がけているが、難しい点もある。現職教育（校内研修）で地域講師から教員も学んだり、子どもの制作過程の途中で適宜指導を受けたりしてきたことにより、毎年、少しづつ技量や指導力の向上を図ってきている。

（3）「特色ある学校づくり推進事業」に補助員を配置したことによる成果

- 体力向上補助指導員は、週4時間・年間約128時間の体育授業で、主に各種運動の技能や練習方法についてアドバイスしていただいた。体育専門の教員は少ないので、体育の専門家からの支援や助言があることで本当に助かっている。また、2人体制で授業を行えるため、個別指導の時間が多く設けられ、児童の運動意欲・運動技能・運

動能力の向上につながっている。

- 校内整備員は、週平均8時間で勤務時間数が少ない中が、積極的に作業をしていただけていることにより、校地内の環境整備が進んだ。そのおかげで、子どもたちがいろいろな面で活動しやすくなっているし、また、教員にとっては教育業務に充てる時間がより多くとれ、大変助かっている。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- 「学校ホームページ」で各学年の取り組みや全校活動の様子等を紹介した。
〔特色ある学校づくりの取組の紹介：60ページ以上、週1～2回程度更新〕
- 「学校だより」「学年だより」等で、児童の活動の様子を紹介した。
〔学校だよりは月2回程度発行、学年だよりはほぼ毎週発行〕
- 12月、持久走大会の日、本校運動場にて、全校児童が「打ちはやし」を披露し、多くの来場者（保護者・地域の方々）へ向けて発信した。
- 1月～2月に全校児童の「和紙作品」を小原和紙美術館・小原交流館及びその他の施設で展示し、地域の多くの方々に見ていただくことができ、今年度も好評であった。
- 2月中旬の『学習発表会』では、生活科・総合的な学習の「1年間のまとめ」を保護者や地域の方に参観してもらう予定で進めている。
〔保護者だけでなく、祖父母や地域の方にも参観していただくよう、学校から案内〕